

2024 年度

東北学院大学 履修証明プログラム

コミュニティソーシャルワーカー（C S W）

スキルアッププログラム

自己点検・評価報告書

2025 年 10 月

東北学院大学

地域連携センター

1. はじめに

東北学院大学（以下、「本学」という）は設立以来、地域連携・社会貢献をその重要な使命の一つとして位置づけてきた。2014 年、文部科学省「地（知）の拠点整備事業」に採択され、その取り組みをもとに、学卒者養成のみならず、地域社会の活性化、地域福祉の充実を担いえる社会人教育を実践するため、2016 年度に「コミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラム」（以下、「CSWスキルアッププログラム」または「本プログラム」という）を開設した。2024 年度に開講 9 年目を迎えた本プログラムの自己点検・評価結果を、本報告書にまとめた。

2. コミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラムとは

CSW スキルアッププログラムは、地域福祉・社会福祉現場の課題に直結する本格的、実践的な授業内容を通して、まちづくりのキーパーソンであるコミュニティソーシャルワーカーのスキルアップを目指す教育プログラムである。

本プログラムは、本学の重要な使命の一つである、地域連携・社会貢献に寄与すべく、学校教育法第 105 条及び学校教育法施行細則第 164 条に基づき、2016 年 4 月より履修証明プログラムとして開講している。開設以来、宮城県内の社会福祉、地域福祉分野に従事する社会人が中心に受講され、2024 年度末時点で、累計修了者数は 90 名を超えた。

なお、2016 年度の開設時より文部科学省「職業実践力育成プログラム（BP）」に認定されている。

3. 教育プログラム等の内容

CSW スキルアッププログラムは開講科目を、基礎科目、必須理論、実践技法、特論演習、事例研究の 5 つに分類し、体系的かつ包括的な内容となるようプログラムを構築している。上述の科目分類のうち、基礎科目及び必須理論を構成する科目群を必修科目とする一方、実践技法、特論演習及び事例研究の科目群は選択科目として設置し、受講生の興味・関心に応じた履修を可能にしている。また、開講期間のおおよそ中間時に「中間報告会」、最終科目に「最終報告会」を設け、それぞれの段階における修得度等を測定している。

(1) 受講要件

本プログラムは、以下の 2 つを受講要件として定めている。

- ① 高等学校、または中等教育学校を卒業した者。または、大学を受験できる資格を取得した者。
- ② 社会福祉協議会に関わる職員。ただし、地域づくりに貢献したいと考える方の受講も可能。

※社会福祉分野における就業経験等を持たない場合でも、地域づくりに貢献したいという意味を持つ者については、受講可否判定のうえ受講を認めている。

そのため、十分な受講意思・意欲等があると判断された場合、大学生等の受講も可能。

(2) カリキュラム

2024 年度は、必修科目 20 科目（60 時間）、選択科目 29 科目（87 時間）の計 49 科目（147 時間）によるカリキュラムを構築した。設置科目の具体的な内容は、次表記載の通りである。

2024 年度 開講科目・担当講師一覧

分類	科目名	時間	担当講師 (所属等は 2024 年 1 月時点)
必修科目	地域福祉の時代とコミュニティソーシャルワーク	3	阿部重樹(学校法人東北学院常任理事(総務担当))
	コミュニティソーシャルワークⅠ	3	村山くみ(東北福祉大学総合福祉学部准教授)
	コミュニティソーシャルワークⅡ	3	
	ケースワーク	3	竹之内章代(東北福祉大学総合福祉学部准教授)
	社会保障制度の新たな動向Ⅰ	3	阿部裕二(東北福祉大学総合福祉学部教授)
	社会保障制度の新たな動向Ⅱ	1.5	宮城県
		1.5	仙台市
	コミュニケーション基礎論と ICT 活用	3	坂本泰伸(東北学院大学情報学部教授)
	データによる社会調査・分析(社会疫学)Ⅰ	3	鈴木寿則(仙台白百合女子大学人間学部教授)
	データによる社会調査・分析(社会疫学)Ⅱ	3	
	データによる社会調査・分析(ライフストーリー聞き取り)Ⅰ	3	黒坂愛衣(東北学院大学地域総合学部教授)
	データによる社会調査・分析(ライフストーリー聞き取り)Ⅱ	3	
	地域の施策と資源理解Ⅰ	3	武藤哲哉((社福)宮城県社会福祉協議会地域福祉部共生社会推進課長)
	地域の施策と資源理解Ⅱ	3	岩渕徳光((社福)仙台市社会福祉協議会事務局次長兼地域福祉部長)
	地域社会と CSR(企業の社会的責任)	3	矢口義教(東北学院大学経営学部教授)
	組織運営	3	和田正春(東北学院大学地域総合学部教授)
	地域福祉活動計画Ⅰ	1.5	岩渕徳光((社福)仙台市社会福祉協議会事務局次長兼地域福祉部長)
		1.5	佐々利春((社福)富谷市社会福祉協議会事務局次長)
	地域福祉活動計画Ⅱ	3	増子正(東北学院大学地域総合学部教授)
	地域アセスメント	3	森明人(東北福祉大学総合マネジメント学部准教授)
	中間報告会(グループワーク)	3	渡邊圭(東北学院大学情報学部講師)
	最終報告会(グループワーク)	3	渡邊圭(東北学院大学情報学部講師)
選択科目	地域福祉とファンドレイジングⅠ	3	久津摩和弘 ((一社)日本地域福祉ファンドレイジングネットワーク COMMNET 理事長)
	地域福祉とファンドレイジングⅡ	3	
	協働の手法Ⅰ	3	遠藤智栄(地域社会デザイン・ラボ代表)
	協働の手法Ⅱ	3	
	ファシリテーションの実際とワークショップ運営	3	渡邊一馬((一社)ワカツク代表理事)
	健康格差論	3	鈴木寿則(仙台白百合女子大学人間学部教授)

		傾聴の技法	3	阿部重樹(学校法人東北学院常任理事(総務担当))
		コミュニティビジネス	3	吉澤武志((一社)筆甫地区振興連絡協議会事務局長)
		臨床宗教学(聴くことのカ-カフェでもんくの事例から)	3	金田諦應(通大寺住職)
		対人コミュニケーションと心理的援助	3	臼倉瞳(東北学院大学人間科学部講師)
		発達障がい者支援	3	皆川美雪(宮城学院女子大学学生相談室准教授)
		ソーシャルワーク・スーパービジョン	3	塩村公子(佐久大学人間福祉学部非常勤講師)
		認知症の理解と地域支援	3	石原哲郎(脳と心の石原クリニック)
		非営利とは何か-生活と生業の支援から考えるボランティアの臨界	3	齊藤康則(東北学院大学地域総合学部准教授)
	特論演習	特論演習:高齢者支援と地域社会	3	西澤英之(宮城県社会福祉士会常務理事・事務局長)
		特論演習:生活困窮者支援と地域社会	3	後藤美枝((一社)パーソナルサポートセンター自立相談支援部次長)
		特論演習:子育て支援と地域社会	3	小岩孝子((特非)FORYOUにこの家理事長・事務局長)
		特論演習:障がい者支援と地域社会	3	伊藤清市((社福)宮城県障がい者福祉協会副会長)
		特論演習:精神障がい者支援と地域社会	3	菅原里江(東北福祉大学総合福祉学部准教授)
		特論演習:SDGsと地域社会	3	紅邑晶子((一社)SDGsとうほく 代表理事)
		特論演習:災害とコミュニティソーシャルワーク	3	渡邊圭(東北学院大学情報学部講師)
		特論演習:三次救急病院からの地域移行支援	3	澤井彰(仙台市立病院)
	事例研究	事例研究:仙台市におけるコミュニティソーシャルワーク	3	大久保環((社福)仙台市社会福祉協議会地域福祉課地域福祉係)
		事例研究:南三陸町におけるコミュニティソーシャルワーク	3	高橋吏佳((社福)南三陸町社会福祉協議会地域福祉係長)
		事例研究:柴田町におけるコミュニティソーシャルワーク	3	相原美由紀(柴田町地域包括支援センター管理者)
		事例研究:地域活動とコミュニティソーシャルワーク	3	増田恵美子(富谷市 Narita マルシェ)
		事例研究:成年後見制度とコミュニティソーシャルワーク	3	千脇隆志(社会福祉士事務所いろは)
		事例研究:東京都豊島区におけるコミュニティソーシャルワーク	3	田中慎吾(豊島区民社会福祉協議会)
		事例研究:ボランティア活動支援の実践	3	渡邊圭(東北学院大学情報学部講師)

(3) 修了要件

本プログラムは、以下の3つを修了要件として定めている。

- ① 120 時間以上（必修科目 60 時間、選択科目 60 時間以上）の講義を履修し、実出席時間が 96 時間以上であること（欠席時は、授業収録映像を視聴する）
- ② 履修科目ごとに提出するミニッツペーパーの点数が合格ライン以上であること
- ③ 最終報告会で合格の評価を得ること

(4) フォローアップ授業科目

修了生に対する学びのサポートとして、2018 年度より「フォローアップ授業科目」制度を設けている。2024 年度は、以下の 2 科目をフォローアップ授業科目として、修了生にも公開した。

2024 年度 フォローアップ授業科目一覧

科目名	時間	担当講師
地域アセスメント	3	森明人(東北福祉大学総合マネジメント学部准教授)
事例研究:東京都豊島区におけるコミュニティソーシャルワーク	3	田中慎吾(豊島区民社会福祉協議会)

4. 広報活動、受講生等の状況

(1) 広報活動等の状況

① 募集要項（パンフレット）の作成

募集要項（パンフレット）を毎年度作成している。募集要項は、名義後援団体の他、宮城県内の社会福祉法人や地域包括支援センター等に送付している。送付先団体からは毎年度受講の申込みがあり、広報活動として一定の効果があると考えられる。

② 名義後援団体への広報

C S Wスキルアッププログラムは、宮城県、仙台市を始め、下表記載の 40 団体から名義後援を受けている。全ての名義後援団体に対し、継続的に募集要項等を送付し、広報活動を行っている。名義後援団体からは、プログラム運営への支援の他、所属職員等から毎年度複数名の受講申込みがあり、広報活動の効果が認められる。

2024 年度 名義後援団体

宮城県	名取市社協	富谷市社協	亘理町社協	色麻町社協
仙台市	角田市社協	蔵王町社協	山元町社協	加美町社協
宮城県社協	多賀城市社協	七ヶ宿町社協	松島町社協	涌谷町社協
仙台市社協	岩沼市社協	大河原町社協	七ヶ浜町社協	美里町社協
石巻市社協	登米市社協	村田町社協	利府町社協	女川町社協
塩竈市社協	栗原市社協	柴田町社協	大和町社協	南三陸町社協
気仙沼市社協	東松島市社協	川崎町社協	大郷町社協	仙台市地域包括支援センター連絡協議会
白石市社協	大崎市社協	丸森町社協	大衡村社協	みやぎ生活協同組合

※上表における「社協」は社会福祉協議会を表す

③ 本学ウェブサイトでの広報

本プログラムの運営主体である、地域連携センターのウェブサイト*内で募集要項のデータを掲載するなど、プログラムの紹介を行っている。

④ マナパスへの掲載

リカレント教育等の情報発信サイト「マナパス**」に、毎年度最新の講座情報を掲載している。全国のリカレント教育情報等をまとめたサイト上で広報を行うことにより、本プログラムの知名度上昇が期待される。

(2) 受講生等の状況

① C S Wスキルアッププログラム受講生

2024 年 2 月から募集要項を公開して 4 月 8 日までの間、受講生の募集を行い、10 名からの受講申込みがあった。審査の結果、10 名全員が書類審査を通過し、C S Wスキルアッププログラム受講生として認められた。

C S Wスキルアッププログラム 申込み者数・受講生数

開講年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
申込み者数	18 名	15 名	10 名	11 名	9 名	10 名	10 名	10 名	10 名
(うち、本学学生数)	(1 名)	(1 名)	(0 名)	(1 名)	(1 名)	(0 名)	(0 名)	(0 名)	(0 名)
受講生数	14 名	14 名	10 名	11 名	8 名	10 名	10 名	10 名	10 名
(うち、本学学生数)	(0 名)	(1 名)	(0 名)	(1 名)	(1 名)	(0 名)	(0 名)	(0 名)	(0 名)

② フォローアップ授業科目聴講生

2024 年度は 2 科目をフォローアップ授業科目として設置し、5 名が申込み授業を聴講した。

5. 自己点検・評価体制等について

本プログラムは、毎年度自己点検・評価を実施することにより、PDCA サイクルを実行し、プログラム内容や運営体制等に関する質の向上を図っている。

(1) 自己点検・評価の体制

毎年度の受講・修了状況や、担当教員・受講生からの意見等に基づき、教育カリキュラムの内容や運営体制等、本プログラム全般に関する自己点検・評価を行う。

学外の外部委員を含む C S Wスキルアッププログラム運営会議及び地域連携セン

* 東北学院大学地域連携センター <https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/iprc/program-2>

** マナパス <https://manapass.jp/>

ター会議において、点検・評価を行い、その結果は学内会議を通じて学長に報告する。

(2) 自己点検・評価の公表

自己点検・評価の結果については、本学地域連携センターのウェブサイト等で公表する。

6. 受講生（修了生）アンケート実施結果

2024 年度 C S W スキルアッププログラム修了生を対象に以下の通り、アンケート調査を実施した（回収期間：2025 年 3 月 27 日～5 月 23 日。回答数：対象 9 名のうち 7 名（回収率：78%））。

1. 2024年度のコミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラム（以下、本プログラム）全体に対する満足度を教えてください。（選択式/必須回答）

■満足している → 6名

■どちらかといえは満足している → 1名

■どちらかといえば不満がある → 0名

■不満がある → 0名

2. どのような成長・効果を期待して本プログラムを受講されましたか。以下の選択肢の中から、当てはまるものを全て選んでください。（選択式（複数選択可）/必須回答）

■CSW や類する役割での業務に関する全般的な知識・スキル・態度等の習得 → 5 件

■ 所属する団体での業務に関する全般的な知識・スキル・態度等の習得 → 4 件

■新たな分野・領域に関する知識・スキル等の習得 → 4 件

■ファシリテーション能力等、CSW や類する役割に求められる特定のスキルの習得・向上 → 1 件

■ICT 活用等、業務全般をより円滑に進められるスキルの習得・向上 →2件

■CSW や類する役割に必要な最新知識の習得 → 2 件

■外部の組織とのネットワーク作り → 4 件

3. 前問で回答いただいた内容を習得することはできましたか。(選択式/必須回答)

■十分に習得できた → 2名

■どちらかといえば習得できた → 5 名

■どちらかといえば習得できなかった → 0名

■全く習得できなかった → 0名

4. 本プログラムの受講により、ご自身の成長や、業務への良い効果を感じるかについて教えてください。（選択式/必須回答）

- とても感じる → 6名
- どちらかといえば感じる → 1名
- どちらかといえば感じない → 0名
- 全く感じない → 0名
- 現時点では感じないが、今後効果を実感できると思う → 0名

5. 【設問4で「とても感じる」「どちらかといえば感じる」と回答した方のみ】

※回答対象者7名

本プログラムの受講により、自身の成長や業務への良い効果を「とても感じる」または、「やや感じる」とお答えいただいた方にお伺いします。自身の成長した点や良い効果をもたらしている点について、具体的に教えてください。（記述式/自由回答）

- 日常業務にはない地域福祉に関する視野を広げることができた。また、多くの先生方や仲間との交流ができた。
- CSWの業務内容に関する知識を学べたことで、地域推進の取り組みについてのイメージが具体的にあり、日々の業務の中でCSWと連携する際に認識のズレを最小限にできる点。
- 講師の先生や受講生同士の考えを聞くことで、これまで自身になかった知識や新たな考え方ができる様になった。
- 実際に業務に取り組みながら、様々な事例や知識を学ぶことが出来た。また、他組織からの参加された方々から有益な情報をいただくことが多かった。
- 社協さんや地域包括さんとの距離感がとてもあることを感じておりました。しかし受講終了後とても近くに感じる事が出来て、現在では繋がり、一緒に活動させていただいております。

6. 【設問4で「とても感じる」「どちらかといえば感じる」と回答した方のみ】

※回答対象者7名

本プログラムの受講により、自身の成長や業務への良い効果を「とても感じる」または、「やや感じる」とお答えいただいた方にお伺いします。自身の成長や業務への良い効果に関連して、特に役立った講座や内容について、具体的に教えてください（記述式/自由回答）

- コミュニティソーシャルワークに関する総論と事例はCSWとしての自身の視野を広げ、発達障がい者支援、精神障がい者支援は日常業務の理解を深めることができた。
- 市外で実施されている取り組みの具体的な内容に関する講座
- 地域アセスメント、傾聴の技法、組織運営、事例研究、データによる社会調査（黒坂先生・鈴木先生）

■村山先生のコミュニティソーシャルワーク、高橋先生の南三陸町におけるコミュニティソーシャルワークが特に印象に残っています。様々な事例や取り組み方がとても参考になりました。

■すべての教科が初めてだったので、とても刺激になりました。の中で、地域で活動を始められた富谷市の増田恵美子先生の『安心できる居場所』、柴田町相原美由紀先生、小岩孝子先生、遠藤智栄先生など地域で活動されているお話を聞いて、自分も一歩踏み出そうという勇気をいただきました。また、地域アセスメントの森明人先生は、多賀城市の地域活性化に携わっていて、講演会にも参加して来ました。また、障がい者支援の伊藤清市先生は、ご自身が障がい者でありご活躍されているお話は、とても感動いたしました。黒坂愛衣先生のハンセン病患者さんへの聞き取りなど、実際に携わったお話は衝撃でした。そして、『中間報告会』のグループワークは、みなさんのお話を聞くこと、話すこと、書くことで自分の理解度、成長を感じることが出来ました。

7. 授業を受講するにあたってのサポート体制に対する満足度はいかがでしたか。(選択式/必須回答)

■満足している → 6名

■どちらかといえば満足している → 1名

■どちらかといえば不満がある → 0名

■不満がある → 0名

8. 現行のコミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラムでは、修了要件のひとつに「120 時間以上の講義を履修すること」を設けています。この要件を緩和できると想定した場合、「120 時間以上」に対する実感として最も近いものを選んでください。（選択式/必須回答）

■適切 → 3名

■負担は大きいが、必要な時間数であるため減らさない方が良いと思う → 4 名

■負担が大きいため、減らした方が良くと思う → 0名

■その他 → 0 名

9. 【設問8で「負担が大きいため、減らした方が良いと思う」と回答した方のみ】

※回答対象者 0 名

「120 時間以上の履修時間」について「負担が大きいため、減らしたほうが良いと思う」とご回答いただいた方にお伺いします。2024 年度に受講された実感から、何時間程度が適切と思われるか教えてください。（選択式）

■60 時間程度 → 0 名

■60 時間～90 時間程度 → 0 名

■90 時間～110 時間程度 → 0 名

■その他 → 0名

10. 本プログラムは現在、4月に開講し、3月に閉講（修了判定含む）するという1年間のプログラムとして開講しています。プログラムの開講期間について、以下の選択肢の中から、最も実感に近いものを選んでください。（選択式/必須回答）

■適切 → 4名

■負担は大きい、必要な期間であるため短くしない方が良いと思う → 2名

■負担が大きいため、短くした方が良いと思う → 1名

■その他 → 0名

11. 【設問10で「負担が大きいため、短くした方が良いと思う」と回答した方のみ】

※回答対象者1名

「1年間の開講期間」について「負担が大きいため、短くした方が良いと思う」と回答いただいた方にお伺いします。2024年度に受講された実感から、どのくらいの開講期間が適切と思われるか教えてください。（選択式）

■6ヶ月程度 → 1名

■6ヶ月以上1年未満 → 0名

12. コミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラムをお知りになられた経緯について、以下の選択肢の中から該当するものを全て選んでください。（選択式（複数選択可）/必須回答）

■マナパス → 0件

■本学のウェブページ → 1件

■所属する団体への本学からの郵送物等 → 2件

■所属する団体内でのメール等でのお知らせ → 3件

■所属する団体内での口コミ → 2件

■所属【外】の団体からのメール等でのお知らせ → 0件

■所属【外】の団体の方からの口コミ → 1名

■その他 → 0件

13. 本プログラムの受講を同僚等周囲の方に勧めたいかについて、以下の選択肢の中から、該当するものを全て選んでください。（選択式（複数選択可）/必須回答）

- CSW や類する役割での業務に関する全般的な知識・スキル・態度等の習得が必要な方に勧めたい → 4 件
- 所属する団体での業務に関する全般的な（CSW の役割に限らない）知識・スキル・態度等が必要
必要な方に勧めたい → 5 件
- 新たな分野・領域に挑戦する方に勧めたい → 2 件
- ファシリテーション能力等、CSW や類する役割に求められる特定のスキルを
習得・向上させたい方に勧めたい → 0 件
- ICT の活用等、CSW の役割に限らない業務全般をより円滑に進められるスキルを
習得・向上させたい方に勧めたい → 0 件
- CSW や類する役割に必要な最新知識を身に付けたい方に勧めたい → 1 件
- 外部の組織とのネットワークを作りたい方に勧めたい → 4 件
- 受講を勧めたいとは思わない → 0 件
- その他 → 0 件

14. 本プログラムでは、修了生のみなさんに一部授業を無料で公開する「フォローアップ授業科目制度」を設けています。この他に、修了生のみなさまを対象とした制度等で希望されるサポート体制等がありましたら、教えてください。（記述式/自由回答）

- アルムナイでの懇親の場、視察研修（有料でも可）
- 先生方の講演会などがありましたら、教えていただきたいです。

15. 本プログラムで教えてほしかったこと（教育内容）がありましたら、ご自由にご回答ください。（記述式/自由回答）

- 日本はインクルージョンが遅れていると言われていますが、海外はどのような取り組みをしているのか知りたい。

16. 本プログラムを受講して良かったこと、または有益だと感じる内容がありましたら、教えてください（教育内容、事務局体制等のプログラム全般に関する内容で結構です）。（記述式/自由回答）

- 先生方や仲間との交流
- 様々な講師の先生とも繋がりを持てたことも有益でした。

- 欠席したときの体制、ミニッツペーパーなどの提出で、出席できなかったけど、勉強が出来ることとでも良かったです。教室の温度などにもお心遣いをいただき、とても学習しやすい温度でした。事務局の方々ありがとうございました。

17. 本プログラムを受講して困ったこと、または改善してほしいことがありましたら、教えてください
(教育内容、事務局体制等のプログラム全般に関する内容で結構です)。(記述式/自由回答)

- 資料の原稿を読んでいるだけの講師もいて、品質のばらつきが大きいのが気になった。講義ごとに満足度を取るなどフィードバックをしても良いのではないかなと思う。
- 地域の行事と被ってしまうことが多く、他職員からのフォローなしでは授業を受けきることが難しかったです。ビデオ講義を受けられる時間数に制限があることを知らない受講者が殆どだったことも気になりました。

18. その他、本プログラム全般に対し、ご意見、ご感想等がありましたら、ご自由にご回答ください。

- 社協の方だけでなく、広く企業や福祉事業者から参加を募るように、講座の意義が伝えて頂けるとよいと思った。
- プログラム自体はとても参考になり、他事業所の方や講師の方々との出会いも貴重なものであり、講義を受けさせていただけたことに感謝しております。ありがとうございました。
- 当初から、温かく笑顔で対応していただき、年齢も様々な方々と楽しく過ごす事が出来ました。ありがとうございました。

※回答内容について、明らかな誤字・誤変換は事務局にて修正のうえ記載

※個人や受講生の所属団体が特定される可能性がある記述内容は記載せず

※自由記述において、「特になし」に類する内容は記載せず

7. 自己点検・評価について（アンケート等に基づく次年度以降への変更・検討等）

(1) 自己点検・評価、ならびに次年度以降への改善、充実等

① 広報活動

本プログラムは、社会福祉協議会や地域福祉分野に従事する者を主な受講対象者として想定しているため、宮城県内の社会福祉協議会や他の社会福祉法人等を広報活動の主な対象としている。特に仙台市社会福祉協議会からは毎年度複数の受講申込みがあることから、広報活動については一定の効果があると評価できる。

しかしながら、社会福祉協議会を含む社会福祉法人のみを主な受講対象者として設定すると、より多くの受講生獲得は難しい。社会福祉法人等に対する着実な広報

活動を継続しつつ、新たな受講生層（職業、居住地等）の開拓が今後も引き続き求められる。

② 教育カリキュラム、授業内容等について

(i) 教育カリキュラム全般について

「受講生（修了生）アンケート」の回答からもわかるように、本プログラム全体に対する満足度は非常に高い。本プログラムにおける教育カリキュラムの内容（設置科目等）については、毎年度効果検証を行い、改善を図っており、そのことが受講生の総合的満足度に結びついているものと評価できる。

(ii) 実務家教員の配置について

実務家教員の積極的配置は、本プログラムの大きな特徴であり、受講生からも好評を得ているため、今後も継続すべきである。

社会福祉分野等における実務家教員の配置は、名義後援団体等からの厚い支援により実現できている。現在の名義後援団体との関係性を継続するとともに、他団体等との連携・協力の可能性についても、今後検討を行う。

(iii) 学際性をもったカリキュラム構成等について

実務家教員の積極的配置に加え、学際性に富んだカリキュラム構成は本プログラムのもう一つの大きな特徴となっている。“学際性”は、コミュニティソーシャルワーカーの育成及びスキルアップを高等教育機関である本学が担うことの大きな意義であり、独自性とも言える。

8. 終わりに

C S Wスキルアッププログラムは開設から9年目を終え、累計修了生数は90名を超える。本プログラムは開設以来、受講生（修了生）アンケート等に基づき、絶えず教育カリキュラムの検証、改善を図ってきた。また、宮城県社会福祉協議会及び仙台市社会福祉協議会等との緊密な連携・協力関係を構築することにより、県内の社会福祉、地域福祉現場における最新の情報等を受講生に提供する努力を重ねてきた。

このように教育プログラムの改善サイクルを絶えず実行してきたことが、受講生の1年間の学習に対するモチベーションを保ち、高い修了率を維持することに繋がっている。毎年度の修了生から、プログラム全体に対する高い満足度を得られていることも、その証左と言える。

C S Wスキルアッププログラムは、2025年現在、本学が開講する唯一の履修証明プログラムである。本プログラムについては、自己点検・評価体制に基づくPDCAサイクルを絶

えず実行することにより、引き続き改善、充実を図る。今後はさらに、本プログラムの運営により得られたリカレント教育の実施・運営に関するノウハウ等を蓄積し、本学における社会人教育の運営体制確立にも寄与することを目指していく。